



こころの中を見つめよう 博愛を広げるために  
2011-2012年度 国際ロータリーのテーマ

尾張旭ロータリークラブ

Weekly

・会長 西尾 輝久  
・幹事 森 和実  
・会報 福岡 健  
・事務局 尾張旭市商工会館  
TEL 0561-54-1263 FAX 0561-54-8945  
E-mail: owariasahi@mte.biglobe.ne.jp  
URL: http://www.owariasahirr.jp/

本日 第1992回 2011年12月17日(土) No.1881

本日のプログラム Today's Program

点 鐘

ロータリーソング「奉仕の理想」

年忘れ家族会

於名古屋観光ホテル

前回 第1991回 2011年12月9日(金) 記 録

斉 唱：「日も風も星も」

来訪者：名古屋経営短期大学 子ども学科助教  
藤林 清仁様

出席者：会員30名中24名出席 出席率80.00%  
前々回補正出席率は11月25日分 93.34%

報、式典やいろいろな行事の写真が全て載っております。先ほど言った外部に対して公共のイメージがはっきりわかり、1番の良い宣伝になると思います。ですからこのようなシステムを会員の皆さんで共有できるように考えていってほしいと思います。

## 会長あいさつ

西尾 輝久



過日の地区大会で今井 R I 会長代理が会員の減少の原因は、老人化にあり、そのために戦略の中心として、クラブの問題を考えクラブの若返りをはかり、活性化させなければならぬ、そしてそのためには、公共イメージを高める事が必要であると言われました。このことを我々尾張旭ロータリークラブについて考えてみますと、何時でも若い人を入会出来る対策を整えておかなければならないと思います。今は携帯電話を持っていない人はほとんどいないと思いますし、一家に1台もパソコンがない家庭もないと思います。以前はファックスでさえ個人的な会や組織で導入することをためらった事があると同じように、もうそろそろ我々もパソコン等、IT関連での事務連絡、Eメール、携帯電話等の連絡網を始めても良い時期に来ていると思う。今後を考え、若者と一緒に活動するためにはやるべきだと思います。今現在ITに強い会員のおかげで尾張旭RCのホームページがあり、閲覧することができます。これをみますと数年前までの会

## 幹事報告

- ・本日の3分間スピーチ 富田 晃君
- ・本日の会合：新人研修会
- ・次回の例会：12/17 年忘れ家族会
- ・例会変更お知らせ：別紙

## ニコボックス

本日のゲスト、名古屋経営短期大学の藤林清仁先生をお迎えして、ボランティア活動の報告、よろしくお願ひいたします。 西尾 輝久君  
藤林 清仁様卓話を楽しみしております。

加藤 清久君  
勝屋 弘忠君、桜井 雅博君、松原 樹君  
例会後新入会員研修会を担当させていただきます。  
楽しくやりましょう。 山田 直樹君

本日の3分間スピーチをさせていただきます。お楽しみに！ 富田 晃君

やや寒さが増してきました。風邪をひかないよう注意しましょう。でも、、、寒さはまだまだ、灯油の売れゆきはよくありません。 森 和実君

悪い風邪が流行しています、年末に向けて体調を整えましょう！ 古橋エツ子君

### ロータリー理解推進月間

	1月 6日(金)	1月13日(金)	1月20日(金)	1月29日(日)
例会予定	卓話担当：例会運営委員会 クラブフォーラム (新年を迎えて)	卓話者：松下 洋一君 演 題：「終末期高齢者 について」	卓話者：親睦活動委員会 親睦例会	27日(金) 振替 東尾張分区 (11RC) インターシティーミーテング 於名鉄犬山ホテル

## 交換バナー



古橋エツ子君が  
11月14日(月)  
第2650地区  
京都西RCでバナー  
交換を行いました。



今回のボランティア隊派遣が決まり、私が引率することが決まってから、どのような活動が良いのか、悩みの日々でした。「学生たち一人ひとりに役割があることが決まってから、どのような活動が良いのか、悩みの日々でした。「学生たち一人ひとりに役割があるように」、「学生たちが嫌な思いをしないように」。この二つは何とか守れるように計画を立てていきたいと思い、ボランティア先探しを始めました。

東北地方にいる数少ない知り合いを頼り、ボランティア先を探しました。その中で、障害児、知的障害・発達障害者関係団体災害対策連絡協議会宮城対策本部の小沢英一さんと知り合うことができ、ボランティア先を紹介していただけることになりました。そこから、今回の気仙沼市、石巻市でお世話になった人たちと知り合うことができました。

ボランティア先の次に悩んだのは、ボランティアへ行く交通費等についてです。ボランティアは本来無精であるという意見もある中、今回はボランティア隊の学生をみんなで支えていこうという意見もあり、カンパを集めることになりました。その後、名古屋産業大学と名古屋経営短期大学の教職員、菊武学園の職員だけでなく、尾張旭ロータリークラブからのカンパもいただけることになりました。学生負担が限りなく少なく済んだのは、多くの人の理解があったからだと思います。

ボランティア隊を終えて、学生たちの中には思うところがたくさんあったと思います。それぞれの学生が何を思ったかは、報告集をみていただきたいと思いますが、学生たちの気持ちも様々ですが、東北地方の人たちの気持ちも様々でした。私たちに積極的に自分たちの思いを話してくださった方たちもたくさんいました。一方、複雑な気持ちを持っている方もいました。それぞれの思いを知ることができ、復興支援とは何なのか考える機会にもなりました。学生たちがどう感じたかは、それぞれの生きてきた環境や経験にもよりますが、さまざまな思いに触れることも、これから生きていくうえで大切な経験になってくれればと思います。

多くの人たちと関わることになったボランティア隊では、旅行会社に勤めていた卒業生を含め、一つのことを実行するには多くの仲間が必要だと改めてわかりました。生きていくことの大切さを思い、自分たちがどのように生きていくのかを考え、誠実に生きたいと考える経験ができたと思います。支えてくださったみなさま、ありがとうございました。

## 卓 話



新世代奉仕委員長

古橋 裕志

名古屋経営短期大学 藤林 清仁様をお迎えして、去る9月5日(月)から、3泊4日の日程で気仙沼市、石巻市の被災地を訪問し大学の学生約17名、東北災害ボランティア支援に出発し、現地での活動状況また予想もしない出来事等、そして支援後の学生達の精神面のケア等いかように対応されたのか、お話を伺いました。

報告集には学生達による災害ボランティアを振り返って、活動を終えて地震の怖さ、ボランティアに参加して数々の報告がなされ、藤林様よりまとめとして次のような報告がありました。

### 東日本大震災 ボランティア隊参加報告

名古屋経営短期大学 子ども学科助教

藤林 清仁

今回、ボランティア隊が宮城県まで行けたこと、この報告集ができあがるまでに、様々な人たちが関わってくれました。その成果として、この報告集があると思います。

2011年3月11日は、私たちの人生にとって、忘れられない、忘れてはならない日ではないかと思えます。多くの犠牲者が出たこと、そして長い復興への道のり。私たちの生き方を問われることにもつながった出来事だと思います。

